

10 FEB 2005 特許協力条約

10/524208

発信人 日本国特許庁 (国際調査機関)

出願人代理人  
小笠原史朗



様

あて名

〒 564-0053  
大阪府吹田市江の木町 3 番 1 1 号第 3 ロンヂェビル

PCT  
国際調査機関の見解書  
(法施行規則第40条の2)  
[PCT規則43の2.1]

発送日  
(日.月.年)

27. 4. 2004

今後の手続きについては、下記 2 を参照すること。

出願人又は代理人  
の書類記号

PCT04-135

国際出願番号

PCT/J P 2004/003026

国際出願日

(日.月.年) 09. 03. 2004

優先日

(日.月.年) 20. 03. 2003

国際特許分類 (IPC) Int. Cl<sup>7</sup> G01S13/93, G01S7/06, B60R21/00,  
G08G1/16

出願人 (氏名又は名称)

松下電器産業株式会社

1. この見解書は次の内容を含む。

- ☒ 第 I 欄 見解の基礎
- ☐ 第 II 欄 優先権
- ☐ 第 III 欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解の不作成
- ☐ 第 IV 欄 発明の単一性の欠如
- ☒ 第 V 欄 PCT規則43の2.1(a)(i)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
- ☐ 第 VI 欄 ある種の引用文献
- ☐ 第 VII 欄 国際出願の不備
- ☐ 第 VIII 欄 国際出願に対する意見

2. 今後の手続き

国際予備審査の請求がされた場合は、出願人がこの国際調査機関とは異なる国際予備審査機関を選択し、かつ、その国際予備審査機関がPCT規則66.1の2(b)の規定に基づいて国際調査機関の見解書を国際予備審査機関の見解書とみなさない旨を国際事務局に通知していた場合を除いて、この見解書は国際予備審査機関の最初の見解書とみなされる。

この見解書が上記のように国際予備審査機関の見解書とみなされる場合、様式PCT/ISA/220を送付した日から3月又は優先日から22月のうちいずれか遅く満了する期限が経過するまでに、出願人は国際予備審査機関に、適当な場合は補正書とともに、答弁書を提出することができる。

さらなる選択肢は、様式PCT/ISA/220を参照すること。

3. さらなる詳細は、様式PCT/ISA/220の備考を参照すること。

見解書を作成した日

08. 04. 2004

名称及びあて先

日本国特許庁 (ISA/J P)

郵便番号100-8915

東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官 (権限のある職員)

松下 公一

2 S

3 2 0 6

電話番号 03-3581-1101 内線 3257

様式PCT/ISA/237 (表紙) (2004年1月)

ATTACHMENT H

## 第I欄 見解の基礎

1. この見解書は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎として作成された。

- ☐ この見解書は、\_\_\_\_\_語による翻訳文を基礎として作成した。  
それは国際調査のために提出されたPCT規則12.3及び23.1(b)にいう翻訳文の言語である。

2. この国際出願で開示されかつ請求の範囲に係る発明に不可欠なヌクレオチド又はアミノ酸配列に関して、以下に基づき見解書を作成した。

- a. タイプ ☐ 配列表  
☐ 配列表に関連するテーブル
- b. フォーマット ☐ 書面  
☐ コンピュータ読み取り可能な形式
- c. 提出時期 ☐ 出願時の国際出願に含まれる  
☐ この国際出願と共にコンピュータ読み取り可能な形式により提出された  
☐ 出願後に、調査のために、この国際調査機関に提出された

3. ☐ さらに、配列表又は配列表に関連するテーブルを提出した場合に、出願後に提出した配列若しくは追加して提出した配列が出願時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を招える事項を含まない旨の陳述書の提出があった。

4. 補足意見：

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についてのPCT規則43の2.1(a)(i)に定める見解、  
それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲	1-12	有
	請求の範囲		無
進歩性 (IS)	請求の範囲	7-12	有
	請求の範囲	1-6	無
産業上の利用可能性 (IA)	請求の範囲	1-12	有
	請求の範囲		無

2. 文献及び説明

文献1: J P 2001-334897 A (ダイハツ工業株式会社)  
2001. 12. 04

文献2: J P 2002-120677 A (ダイハツ工業株式会社)  
2002. 04. 23

文献3: J P 11-38137 A (株式会社デンソー) 1999. 02. 12

文献4: E P 782007 A2 (DENSO CO.) 1997. 07. 02

請求の範囲1, 6に係る発明は、国際調査報告で引用された文献1または文献2により進歩性を有しない。文献1 (段落【0027】～【0028】、第3-4図) または文献2 (段落【0031】～【0032】、第4図) には、検出された障害物までの距離に応じてビーム幅内の円弧状の点を障害物候補として登録する点が記載されており、登録された点を円弧図形として画像表示することは、当業者にとって容易である。

請求の範囲2, 3に係る発明は、国際調査報告で引用された文献1または文献2及び文献3により進歩性を有しない。文献3 (段落【0011】～【0012】、第9図) に記載されたように、受信信号レベルが閾値を上回った時刻及び下回った時刻を検出し、受信信号レベルが閾値を上回っている時刻の中心時刻を反射波の受信時刻とする点は周知であり、文献3の受信信号処理を文献1または2により教示された障害物検知装置に用いることは、当業者にとって容易である。

請求の範囲4, 5に係る発明は、国際調査報告で引用された文献1または文献2、文献3及び文献4により進歩性を有しない。文献3 (段落【0011】～【0012】、第9図) に記載されたように、受信信号レベルが閾値を上回った時刻及び下回った時刻を検出する点、文献4 (第5欄、第46-58行、第1図) に記載されたように、受信信号レベルが閾値を上回った時刻を反射波の受信時刻とする点、はそれぞれ周知であり、文献3及び文献4の受信信号処理を文献1または2により教示された障害物検知装置に用いることは、当業者にとって容易である。

補充欄

いずれかの欄の大きさが足りない場合

第 V 欄の続き

請求の範囲 7-12 に係る発明は、国際調査報告に引用されたいずれの文献にも記載されておらず、当業者にとって自明なものでもない。